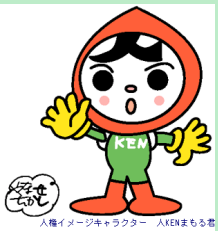
平成28年度人権教育指導者養成事業



人権イメージキャラクター　人KENまもる君

人権セミナー

いじめのない学校づくりの方法

人KENあゆみちゃん

●と　き：平成２８年６月１８日（土）
●ところ：栗原市　ホテルグランドプラザ浦島

本セミナーは，「いじめのない学校づくりの方法」をテーマに，栗原市PTA連合会と共催で開催しました。

栗原市内小中学校のPTA会長・校長・教頭等約８０名が，特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ代表理事小林純子先生と弁護士土井浩之先生のお話を熱心に聞き，いじめと人権について考えました。

家庭や学校における日常生活の何気ない会話や行動が「人権問題」につながっていることに気付くとともに，子どもが自尊感情をもって健やかに成長するために，家庭・地域・学校が一丸となって行動する必要があることを学びました。

また，教職員が，できるだけ多忙感を感じずに余裕を持って子どもに向き合うことができるとともに，裁量性が認められ，自信を持って取り組むことができる職場づくりを進めることが，いじめを生まない学校づくりにはかかせないことであることを学びました。

開会の挨拶
栗原市PTA連合会
会長　久我一仁　氏

開会の挨拶
教育庁生涯学習課
社会教育専門監
菅原一矢　氏

祝辞
栗原市長
佐藤　勇　氏

祝辞
北部教育事務所栗
原地域事務所
所長　亀井清浩　氏

閉会の挨拶
栗原市小学校長会
会長　大沼　透　氏

【参加者からの感想】

○分かっていたつもりですが，子どもに対して私たち大人が「子どもだから」ではなく，対等に付き合っていく大切さを確認することができました。（４０代女性　保護者）

○互いに理解し合う，認め合うということを再確認しました。子どもたちにもあらゆる場面で伝え続けて行きたいと感じました。多忙感の解消に努め，子どもたちと向き合う時間を確保していくよう職場でも取り組んでいきたいと考えます。（５０代男性　教職員）

○「忙しい」ということが、先生方にも子どもたちにもマイナスになり，ストレスになることを分かりやすく説明していただき，本当に良かったです。土井先生のお話をもっと伺いたかったです。とてもよいセミナーでした。役員の先生方に御礼申し上げます。（５０代女性　教職員）

○学校の中で，大切なことを改めて考えさせられました。①多忙感の解消，②裁量性を職員に持たせることを意識して取り組むことで，大きく改善されるのではないかと感じました。（５０代男性　教職員）

○本日は，貴重なお話ありがとうございました。大人として，管理職として，改めて考えさせられるものでした。直接子どもと話す機会が少ない管理職ですが，先生方が子どもと触れ合える，心のゆとりと時間のゆとりを，作ってあげたいと感じました。（５０代女性　教育関係者）

テーマ　～いじめのない学校づくりの方法～

「子どものＳＯＳを受け止めて」
特定非営利活動法人　チャイルドラインみやぎ　代表理事
小林　純子　氏

☆講話の内容

◎統計に見る日本の子どもの現状
- ○いじめの発生件数　Ｈ２６　188.057件（1日515件）
- ○自殺　　H25　320人
- ○不登校　H25　181.301人（約100人にひとり）
- ○虐待死　H25　69件（およそ5日にひとり）
- ○貧困率　2010年ＯＥＣＤ加盟国34カ国中10位

◎子どもの現状
人間関係に気をつかう，孤立への不安，情報過多
ネット依存，自尊感情低い，不登校・引きこもり増加

◎子どもを救済するために
①子どもの様子をよく見る，②子どもの話を良く聞く
③自尊感情をゆっくり育てる，④人権意識を育てる
⑤NO（いや）GO（にげる）TELL（話す）を教える
⑥支援者を見つける・サポートしてもらう

◎子どものＳＯＳをキャッチするために　→　よく「聴く」

◎「子どもの権利条約」
「子どもが権利の主体である」ことを認めた条約
子どもには子ども時代を生きる権利がある
子どもは「小さなおとな」ではない

◎いじめる子，いじめられる子をなくすための子育て７か条

「いじめを見過ごす日常業務の落とし穴」
弁護士　土井　浩之　氏

☆講話の内容

◎現役教師が，能力を発揮せずにいじめを見過ごす理由
「忙しさ」　「裁量性」の欠如

◎「忙しさ」が招くヒューマンエラー
教師が忙しい状況になると，複雑な思考を停止し，短絡的結論に走ってしまい，ヒューマンエラーを引き起こす。

◎「裁量性」の欠如
結果を求められかつ自分に決定権がない場合，大きなストレスがかかり，ヒューマンエラーを引き起こす。

◎教師の能力を発揮させる管理ワーク
①できる限り忙しさを解消する。＝子どもの顔を見る時間の確保
②裁量を認める。（試行錯誤を許容する）＝人間として尊重する

◎忙しい中での次善の方法
- ☆担任を離れた管理職が，達成度を把握する。
- ☆指図をするより，一緒に考え，積極的に具体的提案をする。
- ☆遅れや対応のまずさに立腹せず，覚えてもらう。
- ☆情報を一元化するよりも，共有化すること。
- ☆成果を評価し，ねぎらう。